

第2学年音楽科学習指導案

1 題材名 曲の特徴を感じ取って奏法を工夫しよう

教材名 表現「大きな古時計」 (作曲者 ワーク 編曲 金子 健治)

2 題材について

《新学習指導要領との関わり》

A 表現 (2)ア 器楽表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲にふさわしい器楽表現を創意工夫すること

イ(イ)楽器の音色や響きと奏法との関わり

ウ(ア)創意工夫を生かした表現で演奏するために必要な奏法、身体の使い方などの技能

〔共通事項〕 音楽を形づくっている要素及びそれらに関わる用語や記号などについて、音楽における働きと関わらせて理解すること

(1) 題材観

現代の日本の多くの若者の音楽の楽しみ方として、**J-pop** を聴いたり歌ったりすることが挙げられる。歌詞に共感したり、のりやすいテンポ感や複雑なリズムに興味を持つことで音楽を好んで鑑賞したりする傾向にある。また、スマートフォンの普及と利用者の増加により、**YouTube** の検索や音楽配信アプリなどの活用によって音楽を身近に楽しむことができる時代である。しかし、音楽と親しみやすい環境ではあるものの、音楽を聴いたり歌ったりする中で、曲の特徴に注目することなく音楽を聞き流したり歌ったりすることが多く、音楽の奥深さに触れる機会が少ないと考えられる。

本題材は、説明されたことだけをそのまま取り入れて演奏するのではなく、生徒が自ら曲の特徴を感じ取って様々な奏法を試し、工夫する活動をねらいとしている。旋律の流れや歌詞の内容と音楽が形づくっている要素との関わりを感じ取ることで、楽曲の良さを味わうことができると考える。そして、生徒自身が曲の特徴を捉えることで「こう演奏したい」という思いを持ち、楽譜に書かれていないアーティキュレーションを自分なりに考え、奏法の工夫につなげていくことができると思われる。歌唱は日常生活で最も身近であり、無意識に発声してしまいがちである。そのため、アーティキュレーションの違いを理解させるには効果が薄いと考える。そこで、アルトリコーダーを用い息づかいやタンギングなどの細かな動作を意識させることで、アーティキュレーションの微妙な違いを体感させることができると考える。また、アーティキュレーションのわずかな変化が音楽に大きく影響することを感じ取らせることが、表現の創意工夫への意欲に大いに繋がると考えられる。本題材を通して、生徒が今までに意識しなかった奏法に意識を向けさせ、音楽の奥深さや楽しさを味わわせ、より音楽を親しむきっかけにしたいと考え、本題材を設定した。

(2) 指導観

「大きな古時計」は童謡としても **J-pop** としても幅広い世代で知られている曲である。アルトリコー

ダーの教材の中では他の楽曲よりも有名であり、音符を読むことができない生徒も歌詞を口ずさむことができる楽曲である。曲想が穏やかであるが、後半の「チクタク」のもつスタッカートが含まれた旋律や最後の歌詞「今はもう」の休符が生み出す間や、「動かない」のなめらかな旋律など、楽譜を目にせずとも自然と曲想表現を引き出しやすい魅力があると考え。本題材は歌唱ではなく器楽を通しての学習であるが、アルトリコーダーのやさしい音色や低音の美しい響きが存分に活かされる点で、大いに適している。

また、「大きな古時計」は、歌詞のフレーズやリズムが旋律の抑揚と一致しているため、吹き方の工夫を考えやすく、「なぜそのように吹くのか」という根拠に基づいた表現の工夫が期待できると考える。「アーティキュレーション」をいう言葉を最初から用いることなく、吹き方を工夫していく過程で、テヌート、ノンレガート、スタッカートのそれぞれの特徴を味わわせながら、アーティキュレーションへの理解を深めさせたい。

現在の2学年の生徒は、1学年の頃に「ド・レ・ミ・ファ・ソ・低いシ・ラ・ソ」と「高いラ・シ・ド」の音階を習得済みである。教材は「しりとりの歌」「足なみそろえて」「喜びの歌」「アメージング・グレイス」「ソナタ K.331」「スパークル」を用いた。これらの教材を通して、タンギング、フレーズ感、サミング、低い音色の出し方など、基礎的な要素を習得した。

2学年では習得した基礎的な要素を活かしつつ、「大きな古時計」を通して奏法を工夫しながら表現方法の視野を広げていきたいと考える。教科書の楽譜は、2パートに分けられ、且つ各パートに主旋律が含まれた編曲になっている。短時間の中で、より効果的な学習にするために、本題材においては主旋律のみに編曲した楽譜を用いる。

今回は第一次の扱いで、2時間に分けて行うこととする。1時間目は、演奏する旋律を階名唱し、あわせて運指の確認をする。また、「大きな古時計」の調性に合わせてへ長調の音階を習得させ、調性への意識づけもさせる。シ♭の運指が多く出てくるため、シ♭を単独で覚えさせるのではなく音階の中で運指を習得させることによって、曲の演奏時のつまずきを減らし、苦手意識に繋がらないように工夫したい。2時間目は、平井堅の「大きな古時計」を鑑賞させたり、1番の歌詞で歌わせたりすることによって吹き方の工夫を促す。その上で、楽曲の後半部分を取り上げ、4人組（5人組）でお互いに吹き方がどのようになっているか確認させる。表現を工夫することの奥深さや自ら意識して演奏することができるように生徒へ促したいと考える。

3 題材の目標

曲にふさわしい音楽表現を創意工夫し、必要な技能を身に付けて演奏しようとする

4 題材の評価基準

| ア 音楽への関心・意欲・態度 | イ 音楽表現の創意工夫 | ウ 音楽表現の技能 |
|---|---|---|
| 曲想、器楽の特徴、基礎的な奏法、声部の役割と全体の響きとのかかわりなどに関心をもち、それらを生かし曲にふさわしい音楽表現を工夫して演奏する学習に主体的に取り組もうとしている。 | 音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら、曲想を味わう。楽器の特徴を理解する。基礎的な奏法を生かす。声部の役割と全体の響きとのかかわりを理解するなどして曲にふさわしい音楽表現を工夫し、どのように演奏するかについて思いや意図をもっている。 | 創意工夫を生かした、曲にふさわしい音楽表現をするために必要な技能を身に付けて演奏している。 |

5 研究の視点

【視点2】音楽的な見方・考え方を働かせるための効果的な指導の手立て

◎音楽的な見方・考え方とは、「音楽に対する感性を働かせ、音や音楽を、音楽を形づくっている要素とその働きの視点で捉え、自己のイメージや感情、生活や社会、伝統や文化などと関連付けること」であると考えられる。
(学習指導要領)

○歌詞の内容や旋律の流れから楽曲の特徴を捉え、音楽的な見方・考え方を働かせやすいように、誰もが知っていて歌詞がついている楽曲を選択した。楽譜から特徴を見出すよりも、歌を聞いたり実際に歌詞で歌ってみたりするほうが、歌詞の内容や言葉の抑揚に絞って楽曲の特徴を捉えやすい。

「第2学年及び第3学年は『曲にふさわしい』器楽表現を創意工夫すること」とあり、「曲にふさわしい」とは「多くの人が共通に感じ取れるような、曲固有のよさや特徴の捉え方」を意味している。歌詞の内容や旋律の流れと、自分なりの思いや意図を関連付けて表現の工夫を考えさせたい。「チクタク」の部分を取り上げることで、よりわかりやすく効果的になると考える。

○根拠をもって批評し合う方法として、グループで伝え合う方法を用いる。少人数グループの活動にすることで、気づいたこと、感じたこと等について伝え合いやすく、自分なりの言葉で批評できるように整理しやすいと考えた。仲間の表現の工夫を感じ取り、そのよさを共有することができれば、互いに達成感を味わうことができる。この方法を繰り返すことで、自己のイメージや感情と音楽を形づくっている要素とを関連づけて考える力をつけていきたい。

○他の楽器での演奏を聴かせることによって、音楽を形づくっている要素とその働きを、アルトリコーダーや歌唱と比較して捉えやすくなる。また、間近で演奏することは視覚的にも捉えやすいため、効果的であると考えられる。

6 題材の指導計画及び評価計画（3時間扱い）

| 次 | 時 | ○学習内容・主な学習活動 | 評価規準 |
|-----|---|--|--|
| 第一次 | 1 | ねらい 歌詞や旋律から曲にふさわしいアーティキュレーションを考えて演奏しようとする | |
| | | <p>「大きな古時計」</p> <p>○「大きな古時計」を演奏する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上パートの音を確認し、階名を確認する。 ・旋律を階名唱する。 ・音を出さないで、フレーズごとに区切りながら指づかいだけ練習する。 ・低いシブ・高いシブの運指を覚える。 ・へ長調の音階練習をする。 | <p>〔関心・意欲・態度〕</p> <p>曲想、器楽の特徴、基礎的な奏法、声部の役割と全体の響きとのかかわりなどに関心をもち、それらを生かし曲にふさわしい音楽表現を工夫して演奏する学習に主体的に取り組もうとしている。</p> <p>【観察・記録カード】</p> |
| | 2 | <p>「大きな古時計」</p> <p>○「大きな古時計」の吹き方を工夫する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「大きな古時計」（平井堅）の歌を鑑賞する。 ・個人で演奏しながら、ワークシートの楽譜に吹き方をメモする。 ・2人組になり、相手のワークシートを見ながら演奏を聴き、相手がどのような吹き方になっているのか伝える。 <p>○「大きな古時計」を演奏する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指定された範囲を反復練習する。 ・より適した吹き方を確認し、演奏する。 ・アーティキュレーションについて知る。 | <p>〔音楽表現の創意工夫〕</p> <p>基礎的な奏法を生かす。ふさわしい音楽表現を工夫し、どのように演奏するかについて思いや意図をもっている。</p> <p>【観察・ワークシート・記録カード】</p> |
| 本時 | | | |

7 本時の学習 (2/2)

(1) 本時の目標

歌詞や旋律から曲にふさわしいアーティキュレーションを考えて演奏することができる。

(2) 展開

| 時 配 | 学習内容と学習活動 | ○教師のかかわり ◆評価規準（評価方法） |
|---|--|--|
| 10 分 | <p>1 ウォーミングアップをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「ド・レ・ミ・ファ・ソ・ファ・ミ・レ・ド・シ・ラ・ソ・ラ・シ・ド」の音階練習をする。 既習曲（「しりとりの歌」「喜びの歌」「アメージング・グレース」）を演奏する。 <p>2 本時の目標を確認する。</p> | <p>○教科書（音楽のおくりもの）P8を開かせる。</p> <p>○階名を声に出しながら、運指を見せて確認する。</p> <p>○低い音の前では、よりブレスを意識して伴奏を弾く。</p> <p>○本時の目標を全員で読ませる。</p> <p>○「ふさわしい」とどのようなことか問いかける。</p> |
| <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">曲にふさわしい吹き方を工夫して演奏しよう。</div> | | |
| 5 分 20 分 | <p>3 「大きな古時計」を演奏する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 最初から最後まで演奏する。 運指に気をつけながら演奏する。 <p>4 「大きな古時計」の吹き方を工夫する。</p> <p>【ワークシート：ステップ1】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「大きな古時計」（平井堅）の歌を鑑賞する。 指定された範囲を歌う。 「(歌詞) チクタク チクタク」の部分演奏し、吹き方を意識する。 個人で演奏しながら、ワークシートの楽譜に吹き方をメモする。 メモした吹き方の根拠をワークシートに記入する。 4人組になり、相手のワークシートを見ながら演奏を聴き、相手がどのような吹き方になっているのか伝える。 他のメンバーから伝えられた意見をワークシートに記入し、演奏に取り入れる。 | <p>○演奏前にシブの運指を見せて、確認させる。</p> <p>○運指が苦手な生徒もいるため、難易度の高い前半部分は無理させず、後半部分を中心に演奏することを呼びかける。</p> <p>○平井堅の丁寧な発声や歌い方に注目して鑑賞するように呼びかける。</p> <p>○「(歌詞) チクタク チクタク」の部分演奏させ、吹き方に注目させる。</p> <p>○発想の幅を狭めないために、ワークシートへの記入方法は自由であることを伝える。</p> <p>○机間指導し、必要に応じてアドバイスする。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 記入のある生徒：根拠を問いかける。 記入のない生徒：記入例を伝える。 </div> <p>○4人組（5人組）をつくり、手順を伝える。</p> <p>○グループ内で演奏を聴き合いアドバイスさせることによって、客観的な視点から吹き方を確認させる。</p> |

| | | |
|-----|---|---|
| | <ul style="list-style-type: none"> •他のグループから出た考えを基に演奏し、共有する。 | <ul style="list-style-type: none"> ○机間巡視し、数人の生徒の意見を取り上げ、書画カメラでワークシートの記入内容を電子黒板に映す。 ○書画カメラで映した画面をもとに、吹き方を伝える。 ○生徒が考えた吹き方を全員で演奏させ、共有させる。 <p>(音楽表現の創意工夫)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>◆速度、強弱、旋律、音色を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ取りながら、曲想を感じ取って表現を工夫し、どのように演奏するかについて思いや意図をもっている。</p> <p style="text-align: right;">〈ワークシート〉</p> </div> <p>A: どのように演奏をするかについて具体的に発言したり、様々な音楽表現をしながらよりよい演奏を追求したりするとともに、ワークシートに作品の特徴や生かした音楽表現について自分なりの思いや意図とその理由を明確に書いている。</p> <p>C: 自由に演奏することを楽しみながら、曲にふさわしい奏法を考えたり、吹き方の違いを試したりするよう促す。</p> |
| 15分 | <p>5 「大きな古時計」を演奏する。</p> <p>【ワークシート：ステップ②】</p> <ul style="list-style-type: none"> •より適した吹き方を確認し、演奏する。 •ワークシートに載っている楽譜の範囲を反復練習する。 <p>•アーティキュレーションについて知る。</p> <p>•ワークシートの楽譜にスタッカートの記号「・」を記入する。</p> <p>•チェロ演奏を聴く。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ○電子黒板にアーティキュレーションが載った楽譜のスライドを表示する。 ○模範奏をしながら生徒と反復練習をし、奏法の感覚をとらえさせる。 ○スタッカートの部分(チクタク)をノンレガートやテヌートに変えて、違いを体感させる。 ○電子黒板にスライドを表示しながらアーティキュレーションについて説明する。 ○教科書の楽譜に載っているスタッカートの記号を参考にさせ、記入させる。 ○ノンレガートは普通に吹くときとほぼ同様の吹き方であることを伝える。 ○ブレスを意識しながら、ピアノ伴奏を弾く。 ○いくつかの奏法パターンをチェロで模範演奏し、同じ旋律でも奏法の違いによって表現も多様であることを感じ取らせる。 ○奏法の工夫は合唱にも共通することを伝える。 |

♪「大きな古時計」ワークシート

()組()番 氏名()

目標 「曲にふさわしい吹き方を工夫して演奏しよう！」

【ステップ1】吹き方を工夫しよう！

①「大きな古時計」／♪平井堅 を聴いてみよう！

②歌ってみよう！



ひやくねん やす まず に チク タク チク タクお じいさんと いっしょにチク タク チク タクい



まは もう うごかない そのと けい

③どのように演奏するか（吹き方）を考え、楽譜にメモしよう！ *記入の仕方は自由です。

【ポイント】

☆歌いながら ・ 吹きながら 考える！

☆理由もメモする！

(例)「チクタク チクタク」の部分全員で吹いてみよう♪

ド[♯] ファ ドドレドド ラド ラド[♯] ファ ドドレドド[♯] ラド ラド[♯]

ひやくねん やすま^ずに チクタク チクタク おじいさんと いっしょに チクタク チクタク い

ファ[♯] ソ ララ[♯]レ ヲ[♯] ヲ[♯] ファ ミ ファ

まは もう うごかない そのと け い

④他の人に聴いてもらおう！

【手順】

- ①ジャンケンで勝った人から演奏
- ②演奏する人：ワークシートにメモしたことを意識しながら演奏
聴く人：相手のワークシートを見ながら聴く（ワークシートに書いてある通りになっているか確認）
- ③聴いた人は演奏した人にアドバイス ★良かった点やメモと異なっていた点を伝える！
★演奏した人はアドバイスされたこと楽譜にメモする！
- ④交代し、「②・③」と同じ手順

音と音を
結びつけたり 離したいすること



()

【メモ】



⑤色々なパターンを全員で吹いてみよう！

【ステップ2】 吹き方を工夫して演奏しよう！

ドド ♪ ドドレドド ラド ラ ドド ♪ ドドレドドドド ラド ラ ドド

ひやくねん やすま ず に チク タク チク タク お じい さん と いっ しょ に チク タク チク タク い

♪♪ ソ ララ ♪ ラレ ヴ ヴ ♪ ミ ♪

ま は もう う ご か な い そ の と け い